

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	宮崎マルチメディア専門学校
設置者名	学校法人 向洋学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	ITビジネス科	夜・通信	1102 時間	160 時間	
	Webクリエイター科	夜・通信	1083 時間	160 時間	
	CGデザイン科	夜・通信	190 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

当校ホームページの「学校情報」にて公表： ITビジネス科 https://www.multi-m.jp/company_new/index.html Webクリエイター科 https://www.multi-m.jp/company_new/index.html CGデザイン科 https://www.multi-m.jp/company_new/index.html
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	宮崎マルチメディア専門学校
設置者名	学校法人 向洋学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

当校ホームページの「学校情報」にて公表： https://www.multi-m.jp/company_new/index.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	前職 県立高等学校 教諭	令和7年 5月29日～ 令和11年 5月29日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	企業役員	令和7年 5月29日～ 令和11年 5月29日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	企業役員	令和7年 5月29日～ 令和11年 5月29日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	企業役員	令和7年 5月29日～ 令和11年 5月29日	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	宮崎マルチメディア専門学校
設置者名	学校法人 向洋学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画の作成から公表までの手順を以下に示す。なお授業計画(シラバス)には、授業の方法、内容、年間計画、到達目標等の項目を定め、「授業計画作成ガイドライン」に沿って作成します。</p> <p>1. 前年度(2月迄)に新年度のカリキュラムを作成する。</p> <p>2. 1. で計画したカリキュラムを基に、全教員(常勤、非常勤)による授業計画会議を実施して各学科の方向性を明確にする。※この時点で授業計(シラバス)の案を各教員が作成しておくこと。</p> <p>3. 授業科目の担当教員は、3月中旬までに授業計画(シラバス)を完成させ学科長に提出し、その後学校長が確認を行う。</p> <p>4. 授業計画(シラバス)を新年度(4月)に学生に提示、本校ホームページでの公表を行う。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>当校ホームページの「学校情報」にて授業計画(シラバス)を公表。 https://www.multi-m.jp/company_new/syllabus.html</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学修成果の評価は各授業科目の授業計画(シラバス)に沿って行います。定期試験の成績、課題(作品)やレポート等の提出物、出席状況や授業態度等の履修状況など、授業計画(シラバス)の項目「成績評価の方法」に基づき評価を行い、成績(点数)を算出します。</p> <p>成績評価の基準は、優(100～90点)・良(89～70点)・可(69～40点)・不可(39～0点)として、不可の場合は追試とします。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>定期試験において履修科目の成績(筆記または実技試験、課題提出等)を点数(100点満点)に換算した上で、履修した学生の平均を求める。 学科及び学年毎に学生の成績分布表を作成し、警告対象となる下位1/4の範囲を明確に示します。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>当校ホームページの「学校情報」にて成績の分布状況を公表。 https://www.multi-m.jp/company_new/index.html</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>1. 卒業の認定となる学修成果 卒業の認定となるディプロマポリシーを定め、その能力を身につけることとし、卒業までに目標とする検定を受験し、さらに習得できたスキルを使った作品や課題等を制作することによって卒業の認定となります。 (1) I Tビジネス科ではI T関連の基礎知識を理解しプログラミングができること。J a v aプログラミング検定受験。 (2) C Gデザイン科ではデザインツールを使い作品制作ができること。イラストレーター検定受験。 (3) W e bクリエイター科ではW e bページのデザインやコーディングができること。W e bクリエイター検定受験。</p> <p>2. 卒業の要件 (1) 本校所定の教育課程の当該学年の単位をすべて修得していること。 ※修得とは定期試験の成績の評価が40点以上であること (2) 欠席日数が出席すべき日数の1/4以下であること。</p> <p>3. 卒業判定 (1) 卒業試験終了後、定期試験の結果が出揃った時点以降に、定期試験の結果、出席日数等を基に卒業認定会議を実施する。※卒業認定の要件を備えていない学生については追試を実施後、再審議となる。 (2) 最終の卒業認定は学校長が行う。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>当校ホームページの「学校情報」にて「ディプロマポリシー」及び卒業認定基準を公表。 https://www.multi-m.jp/company_new/index.html</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	宮崎マルチメディア専門学校
設置者名	学校法人 向洋学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.multi-m.jp/company_new/index.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.multi-m.jp/company_new/index.html
財産目録	https://www.multi-m.jp/company_new/index.html
事業報告書	https://www.multi-m.jp/company_new/index.html
監事による監査報告（書）	https://www.multi-m.jp/company_new/index.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	ITビジネス科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1976 時間	646 時間	114 時間	1216 時間	0 時間	0 時間
			1976時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		78人	0人	4人	3人	7人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）授業計画の作成から公表までの手順を以下に示す。なお授業計画（シラバス）には、授業の方法、内容、年間計画、到達目標等の項目を定め、「授業計画作成ガイドライン」に沿って作成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 前年度（2月迄）に新年度のカリキュラムを作成する。 1. で計画したカリキュラムを基に、全教員（常勤、非常勤）による授業計画会議を実施して各学科の方向性を明確にする。※この時点で授業計（シラバス）の案を各教員が作成しておくこと。 授業科目の担当教員は、3月中旬までに授業計画（シラバス）を完成させ学科長に提出し、その後学校長が確認を行う。 授業計画（シラバス）を新年度（4月）に学生に提示、本校ホームページでの公表を行う。
成績評価の基準・方法
<p>（概要）学修成果の評価は各授業科目の授業計画（シラバス）に沿って行います。定期試験の成績、課題（作品）やレポート等の提出物、出席状況や授業態度等の履修状況など、授業計画（シラバス）の項目「成績評価の方法」に基づき評価を行い、成績（点数）を算出します。成績評価の基準は、優（100～90点）・良（89～70点）・可（69～40点）・不可（39～0点）として、不可の場合は追試とします。</p>

<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>1. 卒業の認定となる学修成果 卒業の認定となるディプロマポリシーを定め、その能力を身につけることとし、卒業までに習得すべきスキルと検定目標、さらに1年次、2年次に学修成果として課題のプレゼンを実施することによって卒業の認定となります。</p> <p>(1) I Tビジネス科ではI T関連の基礎知識を理解しプログラミングができること。J a v a プログラミング検定受験。</p> <p>2. 卒業の要件</p> <p>(1) 本校所定の教育課程の当該学年の単位をすべて修得していること。 ※修得とは定期試験の成績の評価が40点以上であること</p> <p>(2) 欠席日数が出席すべき日数の1/4以下であること。</p> <p>3. 卒業判定</p> <p>(1) 卒業試験終了後、定期試験の結果が出揃った時点以降に、定期試験の結果、出席日数等を基に卒業認定会議を実施する。※卒業認定の要件を備えていない学生については追試を実施後、再審議となる。</p> <p>(2) 最終の卒業認定は学校長が行う。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>クラス担任制。学生との二者面談を定期的実施し、また保護者との三者面談も実施し、学習や就職等の支援を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
50人 (100%)	0人 (0.0%)	47人 (94.0%)	3人 (6.0%)
(主な就職、業界等) システム開発会社、システム運用・保守会社、製造、事務			
(就職指導内容) 主な就職先としては、県内では、(株)システム開発、(株)デンソウ、(株)カガ・テクノロジー、(株)クエート等。県内外の企業を招いての校内就職説明会、及びオンライン説明会・試験を随時実施します。担任、就職指導部で連携し、随時二者面談を実施し計画的に就職活動の指導を行っています。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者試験2名合格、ITパスポート試験8名合格、Javaプログラミング能力認定試験48名合格			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
88人	5人	5.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更(就職)、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による学生との面談と保護者への学校生活や学習状況の報告を定期的実施、新入生の保護者説明会と三者面談の実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	Webクリエイター科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1976 時間	485 時間	0 時間	1491 時間	0 時間	0 時間
			1976時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		38人	0人	2人	4人	6人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）授業計画の作成から公表までの手順を以下に示す。なお授業計画（シラバス）には、授業の方法、内容、年間計画、到達目標等の項目を定め、「授業計画作成ガイドライン」に沿って作成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 前年度（2月迄）に新年度のカリキュラムを作成する。 1. で計画したカリキュラムを基に、全教員（常勤、非常勤）による授業計画会議を実施して各学科の方向性を明確にする。※この時点で授業計（シラバス）の案を各教員が作成しておくこと。 授業科目の担当教員は、3月中旬までに授業計画（シラバス）を完成させ学科長に提出し、その後学校長が確認を行う。 授業計画（シラバス）を新年度（4月）に学生に提示、本校ホームページでの公表を行う。
成績評価の基準・方法
<p>（概要）学修成果の評価は各授業科目の授業計画（シラバス）に沿って行います。定期試験の成績、課題（作品）やレポート等の提出物、出席状況や授業態度等の履修状況など、授業計画（シラバス）の項目「成績評価の方法」に基づき評価を行い、成績（点数）を算出します。成績評価の基準は、優（100～90点）・良（89～70点）・可（69～40点）・不可（39～0点）として、不可の場合は追試とします。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> 卒業の認定となる学修成果 卒業の認定となるディプロマポリシーを定め、その能力を身につけることとし、卒業までに習得すべきスキルと検定目標、さらに1年次、2年次に学修成果として課題のプレゼンを実施することによって卒業の認定となります。 (1) Webクリエイター科ではWebページのデザインやコーディングができること。Webクリエイター検定受験。 卒業の要件 (1) 本校所定の教育課程の当該学年の単位をすべて修得していること。 ※修得とは定期試験の成績の評価が40点以上であること (2) 欠席日数が出席すべき日数の1/4以下であること。 卒業判定 (1) 卒業試験終了後、定期試験の結果が出揃った時点以降に、定期試験の結果、出席日数等を基に卒業認定会議を実施する。※卒業認定の要件を備えていない学生については追試を実施後、再審議となる。 (2) 最終の卒業認定は学校長が行う。

学修支援等
(概要) クラス担任制。学生との二者面談を定期的実施し、また保護者との三者面談も実施し、学習や就職等の支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
27人 (100%)	2人 (7.4%)	24人 (88.9%)	1人 (3.7%)
(主な就職、業界等) Web制作、動画編集、印刷、事務			
(就職指導内容) 主な就職先としては、県内では、(株)電通プロモーションエージェ、(株)クロススマート、藤屋印刷(株)、(株)宮崎交通等。県内外の企業を招いての校内就職説明会、及びオンライン説明会・試験を随時実施します。担任、就職指導部で連携し、随時二者面談を実施し計画的に就職活動の指導を行っています。			
(主な学修成果(資格・検定等)) Webクリエイター能力認定試験16名合格、Photoshop能力認定試験15名合格、カラーコーディネーター検定試験10名合格			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
45人	2人	4.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更(進学・就職)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による学生との面談と保護者への学校生活や学習状況の報告を定期的実施、新入生の保護者説明会と三者面談の実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	CGデザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1976 時間	380 時間	20 時間	1576 時間	0 時間	0 時間
			1976時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		78人	0人	3人	2人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）授業計画の作成から公表までの手順を以下に示す。なお授業計画（シラバス）には、授業の方法、内容、年間計画、到達目標等の項目を定め、「授業計画作成ガイドライン」に沿って作成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 前年度（2月迄）に新年度のカリキュラムを作成する。 1. で計画したカリキュラムを基に、全教員（常勤、非常勤）による授業計画会議を実施して各学科の方向性を明確にする。※この時点で授業計（シラバス）の案を各教員が作成しておくこと。 授業科目の担当教員は、3月中旬までに授業計画（シラバス）を完成させ学科長に提出し、その後学校長が確認を行う。 授業計画（シラバス）を新年度（4月）に学生に提示、本校ホームページでの公表を行う。
成績評価の基準・方法
<p>（概要）学修成果の評価は各授業科目の授業計画（シラバス）に沿って行います。定期試験の成績、課題（作品）やレポート等の提出物、出席状況や授業態度等の履修状況など、授業計画（シラバス）の項目「成績評価の方法」に基づき評価を行い、成績（点数）を算出します。成績評価の基準は、優（100～90点）・良（89～70点）・可（69～40点）・不可（39～0点）として、不可の場合は追試とします。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> 卒業の認定となる学修成果 卒業の認定となるディプロマポリシーを定め、その能力を身につけることとし、卒業までに習得すべきスキルと検定目標、さらに1年次、2年次に学修成果として課題のプレゼンを実施することによって卒業の認定となります。 (1)CGデザイン科ではデザインツールを使い作品制作ができること。イラストレーター検定受験。 卒業の要件 (1)本校所定の教育課程の当該学年の単位をすべて修得していること。 ※修得とは定期試験の成績の評価が40点以上であること (2)欠席日数が出席すべき日数の1/4以下であること。 卒業判定 (1)卒業試験終了後、定期試験の結果が出揃った時点以降に、定期試験の結果、出席日数等を基に卒業認定会議を実施する。※卒業認定の要件を備えていない学生については追試を実施後、再審議となる。

(2)最終の卒業認定は学校長が行う。
学修支援等
(概要) クラス担任制。学生との二者面談を定期的を実施し、また保護者との三者面談も実施し、学習や就職等の支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
40人 (100%)	0人 (0.0%)	30人 (75.0%)	10人 (25.0%)
(主な就職、業界等) デザイン会社、印刷会社、映像関連企業、事務			
(就職指導内容) 主な就職先としては、県内では、(株)日向屋、(株)グローアップ、(有)エーク・ブレン等。県内外の企業を招いての校内就職説明会、及びオンライン説明会・試験を随時実施します。担任、就職指導部で連携し、随時二者面談を実施し計画的に就職活動の指導を行っています。			
(主な学修成果（資格・検定等）) Illustrator 能力認定試験 32 名合格、Photoshop 能力認定試験 29 名合格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
86人	3人	3.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更（就職）、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による学生との面談と保護者への学校生活や学習状況の報告を定期的を実施、新入生の保護者説明会と三者面談の実施		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
IT ビジネス科	150,000 円	660,000 円	230,000 円	
Web クリエイター科	150,000 円	660,000 円	230,000 円	
CG デザイン科	150,000 円	660,000 円	230,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				
向洋学園特待生制度 (1 年次の年間授業料を免除。選考試験を行い結果により免除額が決まる。)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 当校ホームページの「学校情報」にて公表： https://www.multi-m.jp/company_new/index.html		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学生がよりよい教育活動を受けられることを目指し、学校をよりよくすることを目的とする。そのために、多岐に渡る意見及び、客観的な意見が必要となることから、卒業生・保護者・関連企業等の関係者を委員に命ずることとする。 実施方法は、「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目から学校が設定した項目について自己評価を行い、その中の課題等を学校関係者評価委員に説明して意見を頂き、対応できるものについては学校として早急に活用していく。年1回実施。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
宮崎産業経営大学 経営学部 教授	令和7年4月1日～令和8年4月1日 (1年)	大学
株式会社グロアップ 代表取締役社長	〃	企業等委員
株式会社シーエスウェア 代表取締役	〃	企業等委員
株式会社ヴァリュシステム 代表取締役	〃	企業等委員
株式会社電通プロモーションエグゼ デジタルデザインルーム宮崎拠点長	〃	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 当校ホームページの「学校情報」にて公表： https://www.multi-m.jp/company_new/index.html		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		
無		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 当校ホームページの「学校情報」にて公表： https://www.multi-m.jp/company_new/index.html
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H145320186132
学校名 (〇〇大学 等)	宮崎マルチメディア専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人向洋学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		112人（ - ）人	111人（ - ）人	112人（ 17 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	47人	43人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅱ区分	14人	-	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅲ区分	-	15人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	32人	35人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	-	-	
区分外（多子世帯）	0人	0人		
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0 ）人
合計（年間）				112人（ 17 ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。